

「統計センターの役割・業務等の在り方に関する研究会」 の開催について（案）

1 目的

統計環境の変化の中で統計センターが実施する製表等の業務を取り巻く状況は大きく変化しつつあり、早急に業務の在り方と統計センターが担うべき機能・役割について検討を進める必要がある。このため、平成18年前半を目途に、有識者の意見を得ることを目的として、統計局において標記研究会を開催する。

2 検討内容

統計調査の正確性・信頼性の確保、報告者の秘密保護を前提として、次の事項について検討を行う。

(1) 統計センターの業務・組織の効率化について

統計センターの業務・組織の効率化に関し、統計センターをめぐる問題点・課題等を整理した上で、市場化テスト・民間開放の手法の活用方策及びITの的確な活用方策等について必要な検討を行う。

(2) 今後、統計センターが担うべき機能・役割について

今後、統計センターが担うべき機能・役割について、製表業務の在り方、政府の統計調査等業務の最適化、統計制度の改革、の観点から必要な検討を行う。

3 構成員

別紙のとおり

4 運営

(1) 研究会の座長については、上記構成員の互選により定める。

(2) 座長は必要があると認めるときは、関係者に研究会への出席を求め、意見を聞くことができる。

(3) 研究会の運営その他研究会に関し必要な事項は、座長が定める。

(4) 研究会は公開しないが、配布資料は、原則、研究会終了後に公表する。

また、研究会における議論の概要については、事務局で取りまとめの上速やかにホームページ上で公開するとともに、議事録については、構成員の了解を得た上でホームページ上で公開する。

(5) 研究会の庶務は、統計センターの協力を得て統計局総務課において処理する。

5 開催期間

平成18年3月から同年6月までを目途に5回程度開催する。

「統計センターの役割・業務等の在り方に関する研究会」構成員

氏名	現職
いい じま ひで たね 飯 島 英 胤	東レ株式会社特別顧問
いい づか よし のり 飯 塚 悦 功	東京大学大学院工学系研究科教授
さ とう ひろ き 佐 藤 博 樹	東京大学社会科学研究所教授
せい け あつし 清 家 篤	慶応義塾大学商学部教授
ばん どう ま り こ 坂 東 眞 理 子	昭和女子大学副学長

(50音順)